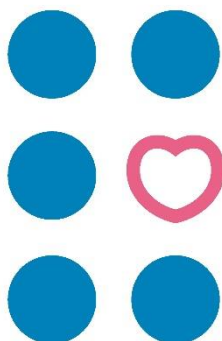


社会福祉法人 京都視覚障害者支援センター

2025年度 事業計画



I はじめに

【基本理念】 希望に満ちた成長への喜び

【行動指針】 働く力・よりよい生活

あなたの能力や可能性に合った自立に向けての支援を行います

1. 2025 年度のテーマ

「チャレンジ」

① 視覚障害者の社会参加

視覚障害者の社会参加には同行援護を利用して外出する方法があるが、入所施設はこの同行援護が利用できない。

一方、入所施設に対して、移動支援を認めている市町村と認めていない市町村がある。

入所＝閉鎖的のイメージはここに一つ原因があると考える。

国は入所から地域への移行を推進しているが、地域に受け入れ先が整備されていない等、入所施設の必要性はまだ十分にあると考える。入所施設を利用している視覚障害者の社会参加を考えたとき、外出は社会に触れる機会の一つであり、社会の障壁とも言える現状を変えていく動きを見せる年度とする。

② 各事業所のチャレンジ

洛西寮

外出の機会を促進するために移動支援の利用が認められるよう京都市に要望する。

らくさい作業所

「見えなくても出来る」を体現しているミシン作業を、主力作業の一つとして検討し実施していく。

訪問相談

京都府下の各相談事業所との連携による、8050問題に直面している視覚障害当事者の発掘。

らくさい治療院、美鈴治療院

- ・らくさい治療院は定員 10 名
年間患者数は 7,000 件
年間売上は 2,500 万円を目標とする。
- ・美鈴治療院は定員 10 名
年間患者数は 5,000 件
年間売上は 1,500 万円を目標とする。

2. 法人経営戦略会議から

2019 年度に慢性的な赤字経営を見直すために、財政再建及び長期計画を柱に緊急対策本部が立ち上がった。2020 年に法人経営戦略会議と名称を改め、5 年の歳月をかけて、今後

の法人運営の基軸を視覚障害者の 8050 問題への支援に取り組むことと定め、さらに、今後 10 年取り組むべき課題について、

- ①経営健全化
- ②後進の育成及び人事構想
- ③洛西寮入所利用者の確保
- ④点字依存への脱却
- ⑤洛西寮に替わる住居基盤の構築について
- ⑥三療指導員の養成

以上大きく 6 つであることを明確にした。

特に法人の健全経営と利用者確保は密接に関係していることから、引き続き広報活動に力をいれ、これと同時進行に各部門の後継者の育成をスタートさせる年度とする。

最後に、2022 年度から黒字に転じ、2024 年度も黒字決算が見込まれる中、法人経営戦略会議はある一定の役割を果たしたことを確認し、一旦活動を休止し、今後は法人運営会議を中心とし、施設の課題に取り組み利用者支援に邁進する。

Ⅱ 事業計画の重点

A. 法人事務局

→ 「チャレンジ」を具体化する事業展開の検討・実施

- ① 法人理念を具体化する、利用者支援・職員の成長への取り組み
- ② 施設入所から地域移行に向けた制度対応と実施
- ③ キャリアパスの構築による処遇改善加算上位ランクの取得
- ④ 京都府訪問相談員派遣事業の採算性とニーズに対するあり方検討
- ⑤ 財政安定化に向けた採算性のある事業展開の精査
- ⑥ 感染予防対策・自然災害業務継続・虐待防止等の確実な実施
- ⑦ 役員改選年度におけるコンプライアンスを遵守したガバナンスの確立

B. 障害者支援施設 洛西寮

→ 「安心安全な生活の提供と新規利用者獲得のための広報」

- ① 平穏な施設の暮らしの維持
- ② 新規入所利用者の確保への取り組み
 - ・ 全国の基幹相談支援センターへの広報
 - ・ 入所、作業の利用体験や見学等の実施
 - ・ ホームページや SNS の充実
- ③ 利用者緊急時の状況に沿った対応
- ④ 地域移行希望利用者への支援

1. らくさい作業所（就労継続支援 B 型）

→「体制の強化」

- ① 安定した収入を得るための体制づくり（ミシン作業の拡充）
- ② 利用者のスキルアップ
- ③ 点字データ作成班・縫製作業の後進育成
- ④ ケース会議の実施

2. 生活支援

→「安心・安全な寮生活」

- ① 安心して暮らすことが出来る環境作り
- ② ケース会議の実施
- ③ 居室環境の衛生保持
- ④ 歩行訓練・余暇活動等による生活の充実

3. 健康管理支援

→「安心・安全な暮らし」

- ① 安心出来る看護体制の整備
- ② 毎日の必要な通院介助と服薬管理
- ③ 基本的な感染症予防の取り組みの継続
- ④ 健康増進のための体力づくり
- ⑤ 衛生管理・健康管理等の教育

4. 栄養管理・食事サービス

→「食と健康の知識を身に付け、健全な生活を実践できる力を育む」

- ① 献立の工夫と、適温給食
- ② 一人ひとりに合った健康の支援
- ③ 食の安全
- ④ メニューを選べること
- ⑤ 行事での食の喜び

C. らくさい治療院（就労継続支援 B 型）

→「年間患者数 7000 件超えを目指す」

- ① 患者及び地域住民の健康の保持、増進に寄与する
- ② 患者の QOL の向上に努める
- ③ 施術スキルのタスクマネジメントの強化
- ④ 患者対応の再現性の意識化を図る
- ⑤ 治療院内外のクリンネスの強化
- ⑥ 患者数、売上、前年の 103%を目指す

D. 美鈴治療院（就労継続支援B型）

→「施術技術、接遇、ソーシャルスキルの向上支援」

- ① スキルチェック、接客、接遇の見直し強化。
- ② より良い対人関係の構築と維持する力をつける支援を行う。
- ③ 患者対応の再現性の意識化を図る。
- ④ 利用者の就職活動支援のため関係機関との連携強化。
- ⑤ 患者数、売上、前年 101%を目指す。

F. 視覚障害者情報提供施設「紫野点字社」

→「社会の点字ニーズに対して良質で迅速な点字出版を行なう」

- ① 視覚障害者関係団体に対する安価で良質な点字印刷物の提供
- ② 行政関係会議資料等の少部数資料への迅速な対応
- ③ らくさい作業所点字出版部門との連携による利用者工賃の確保

G. 京都府視覚障害者訪問相談員派遣事業

→「情報が届かない視覚障害者をなくす」

- ① 移動面でも課題を抱える視覚障害者への訪問相談活動
- ② 孤立・孤独に悩む視覚障害者への支援
- ③ 後進育成
- ④ 広報活動

H. 障害者相談支援事業所「スマイルサポート」

→「福祉サービス等受給者証発行への丁寧、確実なサポート」

- ① 事務業務のミスをなくす
- ② 定期的なピアカウンセリングの実施
- ③ 傾聴によるニーズの発掘
- ④ 福祉サービスの情報収集及び提供

I. 継続事業

1. 人材育成

- ① 職員の支援技術向上の研修会の開催
- ② 各種対外研修会への職員派遣
- ③ 虐待防止、身体拘束適正化等、人権研修の継続

2. 安全防災

- ① 年2回の避難訓練と消防署との連携による防災意識の向上
- ② BCP（業務継続計画）の周知と研修・訓練
- ③ 感染症対策委員会の年4回の実施と研修・訓練

3. 地域交流事業の推進

- ① 読み書きサービスの実施検討
- ② 洛西寮まつりの開催
- ③ 視覚障害者関係団体への会場提供

J. 会議運営等

① 法人運営

- ・ 理事会 年5回（改選）
- ・ 監査会 年1回
- ・ 評議員会 年1回（改選）

② 各種会議

- ・ 法人運営会議
- ・ 洛西寮管理職会議
- ・ 各事業所会議
- ・ 個別支援会議

③ 他機関、他法人関連会議（加盟団体）

- ・ 京都市関係：職員研修会他
- ・ 京都府関係：視覚障害者関係事業の連携
- ・ 西京区関係：支援センター「らくさい」・社協等との連携
- ・ 京都ライトハウス関係：3者連絡会、共済事業委員会等
- ・ 京都府視覚障害者協会：共催事業、相談支援連携
- ・ 京都府立盲学校：学校運営協議会
- ・ 日盲社協：就労支援部会、点字出版部会
- ・ 日本視覚障害者団体連合会